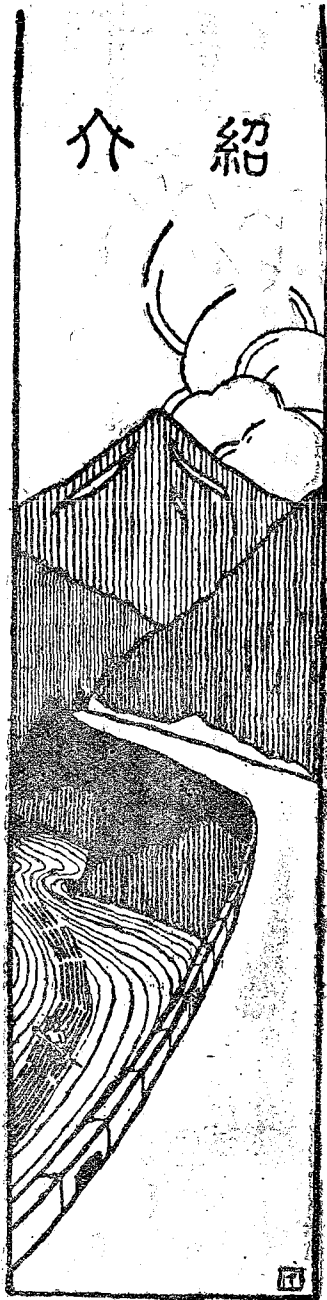


紹介

三明橋架設工事概要



概説

本橋は府縣道城島沖ノ端線に屬し本縣三瀨郡濱武村山門郡沖の端村の郡界沖の端川に架す、沖ノ端川は矢部川の派川にして有明灣に注ぐ。本橋の上流約貳拾町の所に柳河町在り、本地方に於ける主都にして殷盛を極むるも、交通機關としては唯柳河軌道によりて省線矢部川驛に連絡するのみなるを以

福岡縣土木課長 瀧江武

て物貨の集散は主に沖ノ端川の船運に依らざる可からざる狀況にして、道路交通上の不便を痛感しつつあるも、此處に架橋するときは舟行の便は遮断せらるゝの虞あるに依り舊藩當時より渡船によりて僅に連絡し來たつたのである。然れ共時代の進運につれ交通益々頻繁となり到底渡船の不便を忍ぶ能はざるに至り、僅かに賃取木橋の架設を見、之に簡單なる開閉装置を施設したるも、其の後郡制廢止の結果府縣道に認定せ

らるゝ、既に架設後年久しく腐朽甚だしくして危険を感じる

に至りたるを以て茲に架換の計畫を樹て大正十二年及十三年

の兩年度に於て實施するに至れり。然

るに満潮時の水位と桁下との間隔僅少

にして頻繁なる船運を架橋によりて遮

斷することは忽ち地方の盛衰に甚大の

影響を來たすを以て中央部に跳開装置

を施すことゝ爲せり。

工事概要

本工事は大正十三年二月十四日工を起し大正十四年二月六日完成せり。其

の構造は總延長百四十七尺、有効幅員

十五尺とし、二十七尺鐵筋混凝土連續

桁橋四徑間と、三十尺一徑間及九尺徑

間とより成り中央三十尺徑間の内二十

二尺の木床版鋼桁橋を齒車裝置にて跳

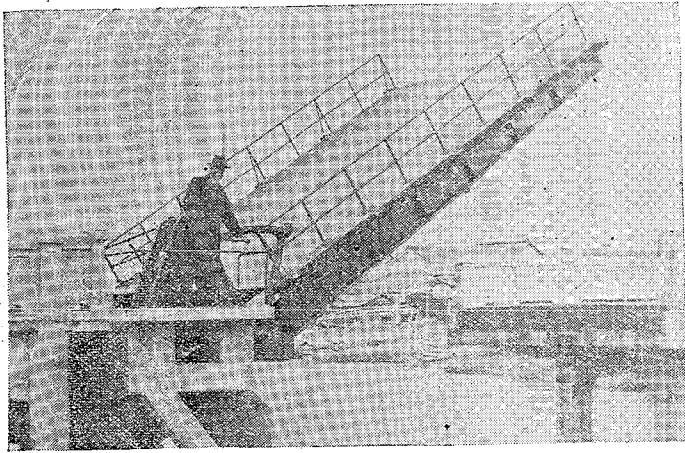
開せしむることゝ爲せり。開閉部の有

効徑間を二十尺とし以て本河川舟行最

大幅員拾八尺の船が、満潮時通過するに些の支障なからし

下三十尺内外しにて稍々堅き粘土層に達したるを以て此處に

橋梁の耐力に就いては左記荷重を標準としたり。



片手にて橋體を揚げしめたること

集中荷重 一〇吨路轆

同 八吨自動車

衝擊率 二五%

群集荷重

橋面一平方米に付五〇〇吨

桁の高さ一尺三寸幅一尺床版厚五寸

丁型連續桁四通りとし心々五尺間隔に

配置し桁の兩端支承箇所は幅一尺高三

尺の橫桁を以て連結し橋脚上に定置せ

しめたり。床版上路面は配合一、三、六

の混凝土にて孤形を作り其上に厚二寸

の混凝土(一、一、五・三)鋪裝を施せり。

高欄は鐵筋混凝土製にて路面より高二

尺五寸とし開閉部に限り鐵高欄を用ひ

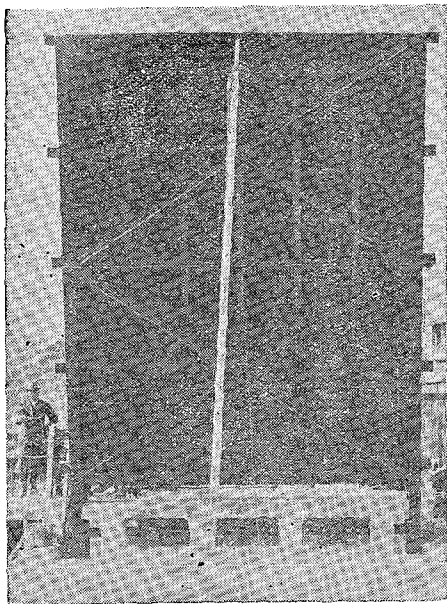
たり。

橋脚基礎は粘土層上に泥土の推積し

たるものにして試験杭打の結果底水面

て支持せしむる計畫の下に長三十六尺一尺五寸角の鐵筋混凝土地杭を基礎とし柱體橋脚を築造す。

橋臺は鐵筋混凝土反丁形とし此の基礎も亦鐵筋混凝土地杭長十八尺一尺五寸角柱を以て支持せしむる事と爲せり。



橋裏體及を通揚船の帆終り柱たる望む

取合道路前後延長五十間幅員三間の嵩上げを附屬工事とす

工事費豫算

總工事費

一九、一八三圓

内 脚

橋臺費

橋脚費

橋體（開閉部を除く）橋面高欄

同（開閉部開閉機共）

假橋費

取付道路費

四六

二、二四九圓

五、四五一圓

四、五六六圓

四、〇一二圓

一、二〇七圓

一、六九八圓



街頭小景

京都府廳 河野生

黒光る鋪裝の道に雨の糸

水玉流す春の朝あけ

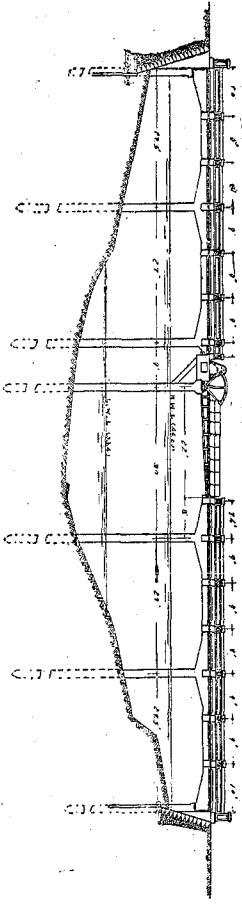
街路樹は霞みて青し

さにずろう乙女姿や物思はしく

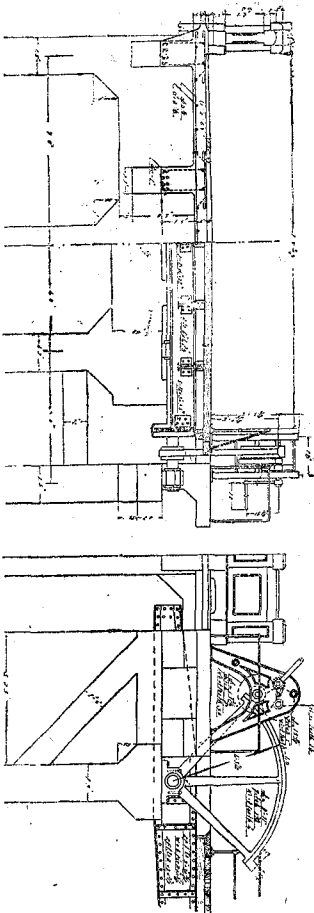
電車行く自動車も行く泥濘める

春雨の日のいらだしけれ

MIKESBASHI ELEVATION

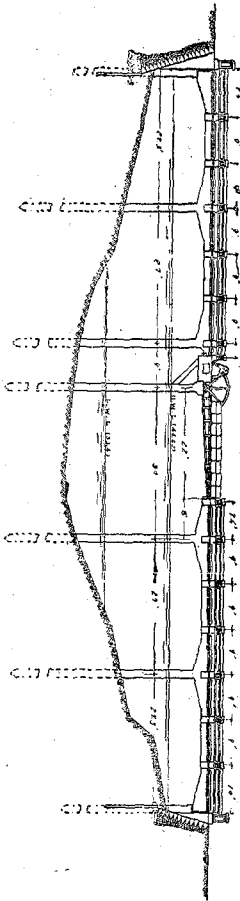


SECTION



MIKEBASHI ELEVATION

Scale 1/8" = 1'-0"



SECTION

